

Q&A

よくある質問にお答えします。



痛み止めは抗がん剤の効果に影響しませんか？

答: 痛みの治療が、がんの治療に影響することはありません。痛みを我慢する理由はありません。いつでも痛みの治療は可能です。



がんの痛みには麻薬を使うと聞きましたが、大丈夫でしょうか？

答: 医療用麻薬は、正しく使うことで、麻薬中毒になるとか、効かなくなってしまうことはありません。ご自宅でも安全に痛みの治療のために使うことができます。



緩和ケアは末期に受けるものではありませんか？ 私にはまだ早いと思います。

答: 緩和ケアは、がんという病気の特定の時期に限定された医療ではありません。手術後の痛みや抗がん剤の副作用の治療も緩和ケアです。また、心のケアはいつでも大切です。緩和ケアはあらゆる時期の患者さんに必要です。



自宅でも十分な緩和ケアが受けられますか？

答: 在宅医療の技術は非常に進歩しています。在宅での痛みの治療、栄養の管理などが幅広く行われています。訪問看護や地域の診療所と協力しながら行うことができますのでご安心ください。

緩和ケアについて、より詳しく知りたい方のために、冊子「あなたの地域の緩和ケア」、DVDやビデオ「我が家に帰ろう—あなたらしいがんの療養—」を、以下の医療機関などで無料でお配りしています。

このほか、緩和ケアに関する書籍を集めた「緩和ケアを知る100冊」も各地域に置かれています。また、講演会なども適時開催されます。緩和ケアについての詳しい情報をお求めの方は、以下の医療機関またはがん緩和サポートセンター*までお問い合わせください。

本プロジェクトのお問い合わせ先

◎鶴岡市立荘内病院 地域医療連携室内
緩和ケアサポートセンター*

☎0235-26-5180 (月～金:9時～17時)
〒997-8515 鶴岡市泉町4-20
E-mail:kanwa.support@shonai-hos.jp

○鶴岡地区医師会 庄内プロジェクト担当
☎0235-22-0136

○鶴岡協立病院 地域医療連携室
☎0235-23-6115

ほかにも鶴岡地区の多くの医療機関がこのプロジェクトに参加しています。
詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.gankanwa.jp>

がんの緩和ケアについて知ってください。

つらい時期を上手に過ごす

—あなたとご家族を支えます。—



OPTIM

この地域は緩和ケアの普及に努めています。



緩和ケア普及の地域プロジェクト
(厚生労働科学研究 がん対策のための戦略研究)

緩和ケアに取り組んでいます。

この地域では全国に先駆けて、がんの患者さんやご家族に対する緩和ケアのプログラムを始めました。

がんの医療と緩和ケア

がん医療における緩和ケアとは、つらくないようにがんと付き合っていく方法です。患者さんにご家族の体と心、生活をサポートし、病気との兼ね合いを考慮しながら、療養の方法などを検討していきます。

治療が辛い、痛みが強い、体調が悪い……このような状態が続くと、日常生活ばかりか生きる気力までも奪われてしまいます。

がん医療における緩和ケアでは、がんが早期か、進んでいるか、にかかわらず、治療中から患者さんやご家族の体や心の苦痛を和らげるお手伝いをいたします。



「できるだけ自宅で普通の生活をしたい。でも家族には迷惑がかかる。」

「痛みがつかなくて困っている。でも痛み止めのことが心配で我慢している。」

「早く退院させてあげたい。でもすべてを自分たちで引き受けるのは不安。」

がんの患者さんやご家族はさまざまな不安を持っています。それらを和らげ、患者さんがその人らしく療養するために、地域の医療や介護などに携わるさまざまな人が協力していきます。

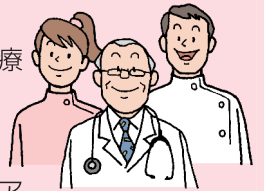
この地域では、複数の病院や診療所、訪問看護ステーションなどが連携して、病院の中だけでなく、ご自宅でも、質の高い緩和ケアが受けられる体制づくりに取り組んでいます。

どんなことができますか？

患者さんやご家族の体や心の問題のほか、療養生活を送る上での幅広い悩みについてもお手伝いします。

たとえば、

1. がんの痛みや不快な症状の治療
2. がんの治療に伴う苦痛の治療
3. 気分の落ち込みや不安、イライラ、不眠などに対する心のケア
4. ご家族の悩みや負担軽減のためのご相談
5. 療養などに対するご相談



これらのことについても、地域のがん緩和サポートセンターや緩和ケアチームが、担当医と協力していきます。

緩和ケアはどこで受けるのですか？

病院の入院や外来のほかに、ご自宅や施設でも緩和ケアを受けていただくことができます。

緩和ケア外来:通院できる患者さん、退院後の患者さんに対して、病院の緩和ケア外来で痛みの治療や心のケアなどを行います。外来での化学療法などと組み合わせることも可能です。

入院中の緩和ケア:入院中の患者さんの苦痛には病院内の《緩和ケアチーム》が対応します。チームは、緩和ケアの専門医、看護師、薬剤師、心理士など多職種のメンバーで構成されています。

ご自宅での緩和ケア:在宅療養を担当される地域の主治医が担当します。退院前から地域の診療所や訪問看護ステーションなどと連携の準備を進めることで、退院後もご自宅で安心して緩和ケアを継続して受けることができます。

緩和ケア病棟:緩和ケアの専門病棟は《緩和ケア病棟》あるいは《ホスピス》などと呼ばれています。体や心のつらい症状の緩和と日常生活を大切にケアです。

がん緩和サポートセンター:これらの施設が連携して、患者さんの状態やご希望に沿った緩和ケアを提供します。それぞれにあった緩和ケアや、療養上のご相談は各地域のがん緩和サポートセンターがお受けいたします。

